

総合的な学習の時間の実践

旭川市

総合的な学習
6年

食から文化の違いを考える

『日本と外国の文化にチャレンジ』

<http://www.fan.hi-ho.ne.jp/douseiren/>

この指導案は、上記のHPよりダウンロードすることができます

単元の概要 と 単元構成

昔から、諸外国の生活や文化は、日本にさまざまな影響を与えてきました。IT化の進歩により、それがますます加速化しています。その一方、日本の文化のよさは失われつつあります。そこで本単元では、食文化の『漬け物』を食べるという共通体験を通して、文化との相違点と共通点を比較しながら追究できる単元を構成しました。異文化を共感的に受け止め、お互いの特質や歴史的な価値を認め合うことで、子どもたちの文化観の深まりを期待しました。

学習活動の流れ（3.4 時間）

日本と外国の文化で、似ているけれど

違うものを探そう(6)

- ・留学生との交流
- ・交流を通しての感想発表
- ・日本文化の体験(糠漬け～糠床作り)
- ・外国文化の体験(キムチ～韓国の方との交流)

文化の違いや共通点を見付けよう(18)

- ・グループ毎に追究する
 - 「茶道と紅茶」
 - 「うどんと麺」
 - 「和食と洋食」
 - 「和菓子和洋菓子」
 - 「日本家屋と外国の家屋」

紹介し合おう(10)

- ・体験したこと調べたことをまとめて発表し合う

糠漬けとキムチの比較から、「他のものを比べたい」「きっと色々な食文化の違いや同じところは、身近なところに隠れているのだと思う」などの気づきが生まれました。

北方住宅研究の講義を聞いたり、調理師専門学校で学んだり、うどん打ちや和菓子作り、お茶の作法について、グループに分かれて体験しました。

自分の国との違いを強く感じているはずの外国との接点について考える体験活動を重視して単元を構成しました。



東海大で草屋根見学

教材・活動の Point!

1. 比較して考える単元構成の工夫

似ているけれど違う日本と外国の文化が現れているものを見付け、比較しながら追究させていきました。それぞれの文化の根源的なところにある共通性の発見と、地理的・歴史的な違いについて比較しながら、考えさせることができるように工夫しました。

2. 比較事例の提示から、追究への見通しをもたせる

日本の文化の根源的なものと外国の文化の根源的なもので共通性を認識できるもの。さらに子どもにとってインパクトのある体験が必要でした。本学級の子どもたちは、5学年の総合的な学習の時間等で無農薬栽培による稲作体験を行っていました。このことが日本の文化とつながると考え、着目したのが糠漬けです。



3. 日本と外国の文化の比較から日本文化を見直す

日本の漬け物は、農耕民族、米と文化とのつながりなどの点で食文化を代表できると考えました。外国文化の代表として、韓国のキムチ漬けが見た目や味の違いを越えて共通点を発見できると考え選択しました。また、両者の体験から比較して考えることをモデル体験として、追究への具体的な見通しをもつことができました。

